



2003.10.31 No.39

● sapporo

こころ新たに思うこと

札幌組副組長 佐々木 恵 眞



新年度より副組長として二期目を努めさせていただくことになりました。一期目は不馴れなため、組内の皆様にはご迷惑をおかけしたことと存じますが、温かいご指導のもと無事、努めさせていただきましたこと感謝いたしております。

以前は組の基推委の組織は六部二委員会でありましたが、新年度より六部一委員会に見直され、それぞれ副組長が各部の連携をより密にするために部を担当する運びとなり、私は連研部と広報伝道部を担当させていただいております。

三名の副組長の中での私の役割分担は、一期目同様会計を担当しており、ある住職より、「いつもお金の計算ばかりしているね。」とひやかされ、スタートした二期目でもあり

ます。これからは、「私イコールお金」のイメージを払拭し、一人でも多くのお念仏を喜んでいただける人の輪を広げるような札幌組の運営に携わっていただければと思いを新たにしております。

そのためにも組内の仲間意識の高揚と和が最も大切だと私は信じております。

基幹運動の推進のためには、一人の力は微力ではありますが、組内が一丸となり念仏を喜ぶ人の輪を広げる目標に向かって共に歩いて行く—そんなパワーがあり、協力的で思いやりのある札幌組の運営をめざしたいものです。

今後も、変わらぬご指導、ご協力をお願い申し上げます。

教 区 会 報 告

教区会議員 松 本 哲 朗



紅葉前線の南下が伝えられる今日このごろ、組内の皆様には益々御清栄こととお慶び申し上げます。

組内の皆様には平素から何かとご想情を賜り誠に有難う御座います。

また、9月25日早朝、最大震度6弱の十勝沖地震がありました。皆様には被害等は、ございませんでしょうか。心よりお見舞い申し上げます。

この地震で胆振組、日高組、十勝組、釧路組、根室組の寺院がかなりの被災を受けたようです。現在教務所が被災状況を調査していますので近々皆様に報告されると思います。

教区会報告

もうすでにご承知でしょうが第1回臨時教区会が2003(平成15)年4月23日開催されましたので下記報告いたします。

選挙結果、教区会議長 丸田教雄(僧) 副議長 新谷淳治(門)

常備会員 Aブロック 渡邊春龍、小菅善雄、高間専造
(真願寺、門)

Bブロック 畠山俊雄、藤 賢道、緒方五郎

Cブロック 池上恵龍、八村弘英、澤崎輝雄

以上9名

補充員 Aブロック 宮川英隆、杉林良樹、初山清二

Bブロック 藤堂征彦、小林義教、吉田輝雄

Cブロック 三栗志朗、清涼光男、酒井孝三

以上9名

監査委員 藤田周三、因 二夫 以上2名

第2回臨時教区会が2003(平成15)年6月19日に開催され下記の通り報告致します。

議案① 2002(平成14)年度 北海道教区歳計決算

議案② 2002(平成14)年度

特別会計 北海道教区教学振興資金歳計決算

議案③ 2002(平成14)年度

特別会計 北海道教区退職金積立金歳計決算

議案④ 2002(平成14)年度

特別会計 北海道教区地方災害対策歳計決算

議案⑤ 2002(平成14)年度

特別会計 北海道教区平衡資金歳計決算

事務局より、上記の議案について、説明がありました。監査委員の藤田周三より会計報告がありました。

その後、協議がなされ出席者全員の賛成をもって、議案は可決されました。

常備会開催日

第1回常備会 6月2日 / 第2回常備会 7月11日

第3回常備会 9月12日

以上

基幹運動推進委員会 組織図



副会長

相談員

札幌組講師団

○浅野 教信
藤井 孝至
黒田 融乗



青少年部



◎柴田 範尚

○打本 毅麻

上守 正行 山口 教文
佐々木光明
久朗津泰秀 日野 尊行
横湯 誓之
原 宗法

婦人部



◎上山 知現

○松本 昇陽

坪井 憲雄 佐藤よしえ
青木 眞龍
藤田 幸範 三上 真之
長尾 則子
藤田由紀子

僧侶部



◎出倉 恵隆

○打本 大志

上守 祐善 打本 道彦
由良 文雄 佐藤 英見
藤田 憲昭
増田 弘昭 吉川 光城
松本 哲朗

僧侶会に参加して

去る8月31日初めての札幌組僧侶会が開催されました。

組会、又基幹推委総会等とは異なり、門徒議員の参加されない会合でもあり、ある程度、自由な意見が交わされたように思われます。

組会よりも幅広い参加ということで住職にとどまらず、若手僧侶の方々の意見交換の場としても有意義でありましょう。

しかし、札幌組内と言う狭い地域でもあり、互いに様々な柵（しがらみ）を背負っています。『言いたい

ことは、言え』とは申しますが、言い切れない苦しみもあろうかと存じます。又『言いたい放題』になりますと品性の欠ける僧侶会になるのではないかという懸念もあります。多くの皆様の意見を聞きながら、大変な「気遣い」をされながら述べられているのが伝わってきます。

このあたりがこれからのこの会の、課題のような気がいたします。

札幌組内の問題を他の組の方々が、興味を持って見られているようです。

インターネットを通じて一瞬にして情報は伝わってまいります。

しかしながら、その情報が正確に伝わるのではなく、

常任委員会

[各部部長・委員長]

同朋専門委

常任委員会



佐々木副会長

門信徒部



◎西井芳暎

○増田 隴樹

石田 瑛玄 熊本 教昭
藤原 良樹 坪井 宗尚
久朗津豊秀 竹澤 信也
内平 義敬
藤澤 教彰 佐々木智英

連研部



◎石堂了正

○藤田 宏徳

藤田 善昭 寺内 俊雄
岡 紘雅 草薙 恵真
木村 良麿 青山 直樹
藤井 孝至
一瀬 隆城 長谷川顕淳

広報伝道部



◎内平義和

○長尾 光洋

打本 顕真 宮川 証法
高塚 浄正
西井 正了
上守 祐史
一瀬 守城

ねじ曲げられながら伝わっていく怖さがあります。スキャンダラスな噂、憶測が飛び交い、そしてやがて一人歩き始め、逆に事実が見えにくくなる一面があります。

先日も教区内の他組の方が、『札幌組のお手並み拝見』と申されました。

そうなのです。他の組（他人事）なのです。他人の風聞、のぞきは面白いのでしょうか。悲しいながらこれが現実なのかもしれません。

しかし地元では他人事ではすまされない苦しさ、辛さがあるのです。

「念仏申す」集まりの僧侶としての札幌組の成熟度が試されているのかもしれません。これからも定期的に、この僧侶会の開催を、組執行部が約束されました。

話し合いだけでも意義があることはと思いますが、現在の組、教区、教団、いや我が寺の置かれている危機的状況を考えますと、議論のための議論ではなく、この僧侶会を通じて真剣に前進的な話し合いがされ、共通の問題を、共に考えていくことを願わずにはいられません。

年代、立場、性別を超え、多くの僧侶の方々がこの会に参加され、和合僧として札幌組が念仏のみ教えを中心として歩みたいものです。

やはり基本的には念仏者としての思いが伝わってくるような、僧侶会であっていただければなあと考えています。

「うまくやる」僧侶会ではなく「よりよい」僧侶会、札幌組をめざして。

組 基 推 委 の 動 き

青少年部



平成15年7月30日、札幌別院・札幌組基幹運動推進委員会青少年部共催にて「門徒子弟の集い」寺子屋1日体験が行われました。

登別の伊達時代村で夏の1日を過ごし、江戸時代に普及した身分や男女を問わずに学ぶことの出来た「寺子屋」を体験することで、現在失われている心の豊かさを取り戻し、与えられた既製の物(ファミコン・ゲーム等)でしか遊ぶことが出来ない子供たちに、竹とんぼ・お手玉等の作製、また竹馬などの昔の遊びを通して、私達のく今>を考える機会になれば…そんな願いでの企画でした。

早朝、札幌別院よりバスにて時代村へ、到着後江戸時代の衣服に着替え寺子屋体験、寺子屋の先生が間違えたことを指摘する場面も…

昼食の時に「いただきます」ってだれに言うの?のお話を聞いてきこり鍋を頂き竹とんぼとお手玉を作製しました。自分で作った竹とんぼ、すぐに飛ばせた子、なかなか飛ばなかった子、竹馬に上手に乗れた子・乗れなかった子、みんな本当に楽しく素敵な笑顔を見せてくれました。



婦人部

平成15年5月27日札幌別院に於いて、札幌組仏教婦人会連盟の総会並びに研修会が行われました。総会では平成14年度 事業報告・決算報告が行われ、続いて平成15年度事業計画案・収支予算案が審議された。今年度より報恩講参拝(覚英寺、別院、乗善寺、勝円寺)を行うことが決まった。続いて「お念仏に生かされて」西林寺住職小林義教師の講演。参加者174名



門信徒部

平成15年6月19日札幌別院に於いて、平成15年度「札幌組門徒総代会総会」が開催された。組長、総代会会長挨拶の後、平成14年度事業報告並びに収支決算報告、平成15年度事業計画案並びに収支予算案が審議された。引き続き役員改選について、教区Aブロック総代会研修会（函館組担当）について話し合われた。



ちよつと
読んで
みようか
この
一冊

「親鸞の家族と門弟」

定価 1800円+税
今井雅晴 著作
発行所 法蔵館

この本は親鸞の思想というより、その親鸞の周りの人々をとうして、親鸞をどのようにうけとめたかをあらためて見つめ直した本である。

歴史学の研究をしている著者がその立場から、豊富な資料を読み解き真宗史の常識を覆す新たな親鸞像をさぐる。

親鸞を開祖と仰ぐ私たちであるが、著書はいたずらに親鸞を神格化し、親鸞の思想を絶対視して頭からおしつけるのもよくないといい、それは親鸞以降の誰かが行ったものであるからという。

本書の構成は6章からなっている。

- 一、親鸞と恵信尼…京都時代と関東時代について妻の立場から
- 一、親鸞と善鸞…関東に送られた息子の立場から
- 一、親鸞と如信…親しい孫の立場から
- 一、親鸞と門弟…真仏、顕智、性信、順信の立場から
- 一、親鸞と唯円…「歎異抄」の立場から
- 一、親鸞と覚如…教団形成をめざす子孫の立場から

親鸞の実像へ迫り、現代の人間関係のさまざまな問題を考える大きな示唆を与えてくれる一冊。



二年前、駐車場を整備した際、無理を云い車止め部分に土を入れてもらいました。狭い所ですが、宿根草中心に、二百種類近くの花が春から秋まで次々と花をつけてくれます。

そして、背の高い花は本堂に、洋風の花はガラスの器にと入れられ家の中でも目を楽しませてくれます。

花好きのご門徒さんは、花をみてから入ってきます。帰りにはビニール袋とシャベルを持ち、増えた苗を分けて上げます。

三十年前ご縁があって何もわからぬまま嫁いだ現在の私です。

午後からの法座に壮年会、婦人会の方が早朝からきて、お斎の用意、寺内外の掃除などしてくれます。そして一緒に聞法します。

こんな私を今まで温かく見守り支えて下さった多くの方々に感謝しております。これからも、多くのご門徒が集まる、また温かく迎えられる寺になるよう皆で努力したいと思っています。

趣味はガーデニングの他に読書、観劇です。



真照寺坊守

松本幸子

う ち の 坊 守 さ ん

■嫁いでからの想い■

在家から、お寺の事を何も知らずに法城寺に来て5年が経ちました。

前住職、前坊守も亡くなられていて、お寺のことを教えて貰うのも住職と義兄の副住職を頼りに、あれよあれよと言う間でした。

その間には、結婚の為の慶事委員会で初めてお会いする総代や婦人会の皆さん。

その後すぐには、新しくお寺を建て替える為の建設委員会が出来て建設委員の皆さんや婦人会の皆さんとの準備や何度となく繰り返された打ち合わせ。

新しく出来上がり、落慶法要への準備や打ち合わせと、今思えば怒涛のように（ちょっと、大げさかな？）過ぎた様に思います。

これも、何もかわらず色々失敗をする私を可愛がって助けていただいたのは檀家さんや総代役員の皆さん、そして何より婦人会のみなさんのおかげです。

ありがとうございます。そして、これからも宜しくお願ひします。

■これからの抱負■

何事も無理をせずに、私なりにマイペースで、頑張らずにがんばろうと思います。



法城寺坊守

佐藤よしえ

覚王寺 第3世住職退任・第4世住職継職 奉告法要修行



6月27日法要に先立ち、札幌組組長により退任・継職式が執り行われました。

午後1時30分より第3世住職退任法要が修行され、表白で「昭和52年当時第3世住職を継職以来25年、先人の意を受け継ぎ多くの方々のご指導のもとご法義繁昌と寺門の護持発展に努め、昨年3月職を辞す、今はただ安堵と感謝の想いばかり」と述べられた。長い間、前住職から歴代住職尊前より法灯が第4世へ継承され、継職法要がお付き合い寺院、雅友会の方々、多くの門信徒のもと厳粛の中にも盛大に勤められた。

組内でも珍しい兄弟での継職法要、門信徒の感謝と期待の想いがひしひしと感じられた。

この後、4時30分から札幌グランドホテルに於いて、慰労・祝賀会が370名の参加者によって開催された。

アトラクションに「南米楽器ケーナ演奏・河辺バンド」「ものまねパフォーマンス・ダンキー」が出演し、賑やかな中に終了した。

覚王寺様の益々のご法義繁昌を期待します。



ただ今、本堂新築工事中 證 誓 寺

本年4月より弊寺の永年の念願でありました本堂・納骨堂新築工事を進めております。

規模は、RC一部SRC造、地下2階地上2階、延床面積1,729平方メートル、本体工事を一括して松井建設に依頼しておりますが、内陣木工事のみ分離契約で富山県の森田建設が木工事に参加しております。

この10月6日には、お陰をもちまして多くの門信徒と共に上棟式並びに工匠式を執り行うことができました。本体工事完成は、来年6月その後、内陣仏具工事へと進む運びで計画をしております。

今後しばらくは工事中の為、万事に行き届きませぬ弊寺ではございますが、どうぞ、一層のご指導ご助言を賜りますよう、切にお願い申し上げます。

住職記



お く や み

大乗寺開基坊守 打 本 律 様

法名 眞實院釋尼妙蓮

平成15年10月1日往生 行年84歳



フ リ - コ ラ ム

お勤めの姿勢

報恩講シーズンである。先日、大谷派のお寺の報恩講に出勤した。装束案内があって衣に着換えて座っていると、隣に座っていた老僧が厳しい口調でどなった。

「衣をつけてから、タバコを吸うな！」

どうやら向かいに座っている若い僧侶に言ったらしかった。青年僧は詫びながら、あわててタバコの火を消した。この青年僧は、伽陀の発音もしたのだが、お勤めが終わって座敷に帰ってきたとき、二、三人の先輩から声の高さ、タイミングなどについて

指導されていた。注意をしながら、最後はいい伽陀だったと皆でほめていた。

私は感動していた。近年、私たちの宗派でも声明とか作法に対する関心が高まってきている。昔からみたら、はるかに皆で整然とした勤行作法ができるようになってきた。

しかし、お勤めに向かう心構えはどうであろうか。勤行が終わった後、反省などし合うだろうか。座敷にいるときから、お詣りが終わって座敷に戻ってからも、その全体が「勤行」なのだ、教えられた一日であった。

打本 眞真

報恩講のおとき紹介

光明寺の報恩講は9月27日・28日の2日間勤まります。三地区に分け、三年に一回当番が廻って来ます。

私が少年時代の報恩講のお斉（おとき）は、先ずおとき券を配ることから始まります。それは世話係が帳場におり、御門徒の方々が報恩講懇志を上納されます。

それと引替に一人一枚のおとき券が手渡されます。その券を持って庫裡のおとき部屋に行きおときを頂きます。

そのおとき券と云うのは縦10cm横5cm位の白紙に光明寺の角印が押されていました。

私もその券を持って皆さんと頂くのが楽しみでした。

当時は田舎の精進料理で、とても質素なものでありましたが、何も無い時代で大変な御馳走で報恩講のおときと降誕会のおときが皆、楽しみにしておりました。

それが昭和40年頃から、いつしか精進落しとなり生物を使うようになりました。お寺のすぐ近くに魚師町があり、又当寺の御門徒の九割が農業と云うことで、多忙を極め手間ははずしの意味も含め、写真のような普通の料理になったようです。

当時は黒塗りのお膳にうるし塗りの器に一品ずつ盛り、お給仕の方がついて御飯、お汁のお変わりをしたものです。

今では一体型の器が4つか5つに仕切られ盛り合わせのように簡素化されました。

光明寺

今のおときの内容は、先ずキノ子を主体にしたまぜ御飯、お汁はキノコ、油揚げ、豆腐とシャケの入ったものです。



オカズは煮しめ、その脇に天ぷら、その下に塩焼シャケその他、酢物か野菜いため、別盛りで漬物です。その他の楽しみはお酒、ジュースの飲み放題です。毎年ながら坊守、当番のご婦人方もどのような献立をしたら良いかと頭を痛めております。今、飽食といわれる昨今、原点に戻り御開山聖人当時の飯食を忍ばせて頂きながら、一年に一回の報恩講おときを精進にと思っておりますが、なかなか難しいことだなぁと思っております。

当番の方々が真心を込めて作られた料理を大勢の方々からオイシカッタ、ゴチソウサマと云われたとき心が一つになってオソマツサマと返事をする時、当番に当たって良かったなぁと作る側も、頂く側も報恩感謝の思いを新たにします。

札幌組 光明寺 西井芳咲